



## 命をつなぐNIE

上越教育大学 教授 釜田 聡

2024年1月1日、令和6年能登半島地震が発生した。建物の倒壊や火災など、甚大な被害が判明した。地震被害を被られた方々に謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご快復、ご復興を祈念致します。さて、私は今年で教員生活43年目を迎える。中学校社会科教員として20年、大学教員として23年。NIEは私の教員生活で不可欠なものだった。主に、平和や人権、命、持続可能な社会の在り方とNIEについて考えてきた。

以下、私がこれまで実践してきた平和と震災、命にかかわる実践とデータベースとしての活用を紹介することで、教員とNIEの在り方に迫る。



### 1 アメリカ同時多発テロ (2001年9月11日)

私はコンビニに立ち寄り、店頭に並んでいたすべての新聞を購入した。そして、中学2年生社会科の授業に臨んだ。最初に、新聞の一面を開き、教室の黒板と壁面に掲示した。新聞はニューヨークのツインタワーが崩壊する写真と「米中枢に同時テロ」(朝日新聞)など刺激的な見出しで構成されていた。生徒は教室と壁面に広がる見出しと写真の迫力、そしてレイアウトに圧倒されていた。次に、私は生徒に「皆さんが二十歳になる頃には、この出来事の影響・要因が見えていると思います。そのとき、この出来事が後の世界の転換期になっているかもしれません。関連ニュースに注意してください」と語りかけた。その後、生徒は修学旅行の訪問地である沖縄の探究学習につなげていった。

### 2 東日本大震災 (2011年3月11日)

当時、連日のように新聞紙上で甚大な被害状況が報道された。心を痛める見出し、写真、記事内容だった。一方で、被災地に赴き取材に当たっていた記者の心労を読みとることもできた。記者は被害の実相に直面し、そこから記事を紡ぎ出した。多数の犠牲者や被災者の思いを受け止め、魂を込めて執筆・編集した記事だった。私は「こうした記事を授業で活用することが、尊い命を次世代につなぎ、学生に生きる意味を問うことができる」と考え教材化を試みた。実際の授業場面では、「気仙沼市立階上中学校の卒業式答辞」の記事等を活用して、ストーリーテリングの方法で読み聞かせをした。学生は釜田の語りを聞きつつ、没頭して記事を読み込んだ。教室は静寂に包まれ、感極まった学生の姿が数多くみられた。

### 3 新聞検索 (データベース)

本学には、朝日新聞と新潟日報の記事検索システムがある。朝日新聞は1945年からの新聞記事、新潟日報は2002年からの新聞記事の検索ができる。最近では、日韓の歴史問題やイスラエルとガザの問題について検索し資料収集に努めた。研究室の学生は、卒論執筆のため、学校教育の学習塾の関係を新聞記事で検察・探究している。新聞記事の見出しや記事内容を特定のキーワードをもとに抽出し整理することで、見えなかった事象が見えたり、つながったりする。また、時系列で検索したり、比較したりすることで、物事の本質がみえてくることがある。これからの学校教育における探究活動では必要不可欠なシステムといえよう。

以上の実践をふまえ、これからの教員とNIEの関係について述べる。何よりも新聞を教材化する方法論を重視したい。教員の熱意だけでなく、そこには確固たる方法論が必要である。教材化に向けた方法論が欠落すると、新聞記事を学び手にとって価値ある教材に磨きあげることができない。そのためには、教員・学校教育と新聞社がより連携を密にして、NIEの方法論を再構築し、教材・カリキュラム開発、探究型学習の開発と普及に尽力すべきと思う。そうすることで、学び手が新聞を読むことの価値や意義を認識し、自らの人生をより豊かにするため、新聞と自分との関係を見出すことができると考える。

## 市町村教育委員会を訪問 - 新聞配備を要望-

令和5(2023)年、新潟県NIE推進協議会伊藤充会長と津野庄一郎事務局長が、各新聞・通信社の支局長・総局長と共に、NIEに対する理解と協力を得るために新潟県並びに市町村教育委員会を訪れました。例年の新潟県及び新潟市に加え、今年は3つの教育委員会をNIE研究会開催時に合わせて訪問し、NIE推進協議会の主な事業概要の説明と学校図書館への新聞配備等をお願いしました。

<訪問した教育委員会は、以下の通りです。>

- ・新潟県教育委員会 (佐野哲郎教育長)
- ・新潟市教育委員会 (井崎規之教育長)
- ・出雲崎町教育委員会 (曾根乗知教育長)
- ・胎内市教育委員会 (中澤毅教育長)
- ・柏崎市教育委員会 (近藤喜祐教育長)

## 写真で見る NIE実践研究委嘱校の取り組み (令和5年)

今年も全12校でNIE研究会(2年目)及びまとめの授業研修(2年目)が、計画通り実施されました。詳細は、[新潟県NIE推進協議会ホームページ「お知らせ」](#)をご覧ください!

### <2年目校(NIE研究発表会)>

#### ○ 長岡市立越路小学校 (栗田一志校長・NIE担当 坂井一教諭)



#### ○ 胎内市立胎内小学校 (佐藤健校長・NIE担当 南波真希教諭)



#### ○ 新潟市立松浜小学校 (小坂井秀行校長・NIE担当 加藤雅晃教諭)



○ 出雲崎町立出雲崎中学校（佐藤登校長・NIE担当 久保田ひとみ教諭）



○ 柏崎市立南中学校（池嶋正隆校長・NIE担当 小沢優貴教諭）



○ 新潟県立長岡向陵高等学校（早川智校長・NIE担当 金子将人教諭）



<1年目校（NIEまとめの授業研修）>

○ 糸魚川市立田沢小学校（浅野一清校長・NIE担当 早川尚美教頭）



○ 佐渡市立小木小学校（高橋高志校長・NIE担当 渡邊あずさ教諭）



○ 新潟市立金津小学校（渡邊敏尚校長・NIE 担当 小林雅代教諭）



○ 新潟市立五十嵐中学校（斎藤伸校長・NIE 担当 山崎行人教諭）



○ 阿賀野市立笹神中学校（石崎晃一校長・NIE 担当 丸山温教諭）



○ 新潟県立糸魚川高等学校（早川勝志校長・NIE 担当 松田影英教諭）



＜編集後記＞

NIE の方法には、①新聞を学ぶ、②新聞で学ぶ、③新聞を作り発信するの三つがあり、各実践・研究委嘱校は、自校の実態に応じた NIE に積極的に取り組みました。授業者の働き掛けに生き生きと学ぶ子どもたちの姿、新聞に親しみ、それを教材として活用するよさを語る教師、ICT と新聞の両方を上手く使い分けながら授業を進める教師の工夫等に、教育における新聞活用の可能性を強く感じます。

本県が全国に先駆けて新しい NIE を推進すること 30 年。明日の未来を切り拓く子どもたちの力を育むため、あらためて NIE の価値をかみしめる 1 年にしたいと思います。

（新潟県 NIE 推進協議会事務局長 津野庄一郎）